

平成30年6月（第1回）経営協議会議事要旨

日 時 平成30年6月25日（月）15時00分～17時00分

場 所 本部棟第一会議室

出席者 15 / 16

（学外委員） 亀山 郁夫、板東 久美子、門野 八洲雄、伊東 香織、糸島 達也、
小林 裕彦、松田 正己、青山 肇、梶谷 俊介の各委員

（学内委員） 榎野 博史（学長）、高橋 香代（理事）、佐野 寛（理事）、
竹内 大二（理事）、菅 誠治（理事）、渡邊和良（事務局長）の各委員

欠席者

（学内委員） 金澤 右（理事）委員

（学外委員） なし

○ 学長から、昨年度から直近までの大学の動きを紹介した資料及び本日の資料4の訂正資料・参考資料を机上に配付している旨の説明があった。

○ 前回議事要旨の確認

平成30年3月開催（第5回）の議事要旨（案）について、原案のとおり承認された。

○ 議事

1 審議事項

（1）医療担当理事及び病院長の選出について

高橋理事から、資料1に基づき、医療法改正に対応するため、医療担当理事及び病院長選出方法を改めるとともに、関係諸規則の一部改正及び制定を行う旨の説明があった。審議の結果、原案のとおり承認された。

（関係諸規則の制定・一部改正は次のとおり）

- ・役員規則の一部改正
- ・岡山大学病院における病院長の任命等に関する規則の制定
- ・岡山大学病院長適任候補者選考会議規程の制定

（2）諸規則について

【規則】

① 国立大学法人岡山大学職員給与規則の一部改正

高橋理事から、資料2に基づき、一部改正理由及び改正内容の説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

（3）大学機関別選択評価Cの自己評価書（案）について

高橋理事から、資料3に基づき、大学機関別選択評価Cの概要及び本学における

受審の経緯等について説明があった後、自己評価書（案）について説明があった。続いて質疑応答が行われ、審議の結果、6月末の大学改革支援・学位授与機構への提出までの期間で調整を行う場合には、学長に一任することとして、原案のとおり承認された。

（質疑応答の概要は次のとおり。◆学外委員からの質疑 ◇大学側の回答）

- ◆ 報告書（案）中、優れた点として挙げている「岡山大学ミャンマー事業から国立六大学による国際連携事業への展開」について、岡山大学が中心的な役割を担っているのか。
- ◇ 「国立六大学国際連携機構」の主幹校として現地事務所を活用しながら、医療・工学分野での人材育成のJICAプロジェクト等の共同事業を中心となって実施している。平成28年3月には、「ミャンマー人材育成支援産学官連携ぷらっとフォーム」を設立し、産学官の枠組みを構築した。
- ◆ 資料8ページ「平成35年度までの目標と実績値」の「外国語による授業科目数・割合」について、外国語による授業を必ずしも必要としない学部もあるのではないか。
- ◇ 大学全体での統一目標であり、すべての学部で達成しないといけないものではない。学部によって濃淡の差はある。
- ◆ 観点ごとの評価を自己評価として提出して、最終的に大学改革支援・学位授与機構が評価を行うのか。なお、自己評価結果は、素晴らしいと思った。
- ◇ 評価は、大学改革支援・学位授与機構が行う。（併せて、評価書の提出から、評価結果の確定・公表に至るまでのスケジュールの説明を行った。）

（4）平成29事業年度に係る業務の実績に関する報告書（案）について

高橋理事から、国立大学法人評価のしくみについて説明があった。続いて、当日配付資料により資料4の訂正が行われた後、平成29事業年度計画に係る業務の実績に関する報告書（案）について、年度計画を上回って実施したと自己評価した事項を中心に説明があった。次いで、質疑応答が行われ、審議の結果、原案のとおり承認された。

（質疑応答の概要は次のとおり。◆学外委員からの質疑 ◇大学側の回答）

- ◆ 昨年度の評価はどうであったのか。
- ◇ 年度計画を上回って実施していると評価した項目数は、7項目であった。また、年度計画を十分には実施していないと評価した項目数は、0であった。
- ◆ 資料33ページの「共同研究・受託研究の推進」に関連して、国関係の記載が目につくが、個々の企業との関係を教えていただきたい。
- ◇ 旧帝大と比較して、受入金額の規模が小さい。今後の拡大を図るしくみを検討しているところである。
- ◇ 病院では、橋渡し研究を推進しているが、大型化に発展させることはなかなか難しい。大学として取り組んでいけないといけないところである。

(5) 平成30年6月期 期末特別手当に係る業績勘案率について

高橋理事から、資料5に基づき、平成30年6月期の役員の期末特別手当額に反映させる業績勘案率について説明があり、審議の結果、提案のとおり承認された。

(6) 平成29年度決算について

菅理事から、資料6に基づき、平成29年度決算に係る財務諸表等について、前年度との比較、増減理由及び財務状況等について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

(7) 平成31年度概算要求について

菅理事から、資料7に基づき、文部科学省から提示された平成31年度国立大学法人運営費交付金等の重点支援に係る概算要求の方向性について、昨年からの変更点を中心に説明があった。続いて、同資料に基づき、概算要求額一覧表について、新規事項3件を中心に説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

また、今後、文部科学省と調整の上、内容を確定することになるため、今後の取扱いは学長に一任することが了承された。

なお、学会委員から、新規事項の「ヒューマンビッグデータサイエンス研究拠点の形成」に関し、拠点の内容、規模等について質問が出され、担当理事から説明を行った。

(8) 平成31年度施設整備費等概算要求事業について

菅理事から、資料8に基づき、平成31年度施設整備費等概算要求事業について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

2 報告事項

(1) 国立大学法人岡山大学教員配置方針について

高橋理事から、資料9に基づき、平成30年度以降の教員配置方針について、説明があった。

(2) 寄付講座の設置について

竹内理事から、資料10に基づき、大学院医歯薬学総合研究科に平成30年7月1日付けで設置する寄付講座「災害医療マネジメント学講座」の概要について報告があった。

(3) 寄付講座の存続期間の更新について

竹内理事から、資料11に基づき、平成30年4月1日付けで存続期間を更新する大学院医歯薬学総合研究科の「運動器医療材料開発講座」、「小児急性疾患学講座」及び「地域医療人材育成講座」並びに大学院教育学研究科の「国吉康雄記念・美術教育研究と地域創生講座」の概要について報告があった。

(4) 平成29年度の資金管理及び運用実績の報告について

菅理事から、資料12に基づき、平成29年度の資金管理及び運用実績について報告があった。

(5) 平成30年度国立大学法人岡山大学の会計監査人の選任について

笠原法人監査室長から、資料13に基づき、平成30年度の会計監査人について報告があった。

3 その他

(1) 全般に関して、質疑応答が行われた。

(質疑応答の概要は次のとおり。◆学外委員からの質疑 ◇大学側の回答)

- ◆ SDGs の取り組みについて、具体的にどう取り組めばいいのかが分かりにくいので、具体的な取組事例がもっと増えたらと思う。
- ◇ SDGs の達成に向けた事例集を作成し、HP で公開している。大学内のシーズと外（社会）のニーズがマッチしていくことが大切である。
- ◆ まち・ひと・しごと創生会議で、地方創生の優良事例として、九州大学起業部の取り組みが紹介された。岡山大学で、学生自身が起業を身近に感じるような取り組みをされているか。学生が起業に関心を持つことにより、地元にとどまる学生が増えることとなり、よい流れができるとともに、自治体にとって若い世代が増えるのはありがたい。
- ◇ （理事から、岡山大学発学生ベンチャーの紹介を行った。）
- ◇ 学生に岡山イノベーションコンテストへの参加を周知・奨励するなど、学生のアントレプレナー精神を喚起する取り組みを行っている。
- ◆ THE 世界ランキング（日本版）で岡山大学は25位であった。国際性の項目が劣っていると判断されたためであるが、他大学と比して決して劣っているわけではないと思われるので、原因を徹底的に調査し、対策を立てて20位以内を目指していただきたい。
- ◇ 国際性を示すデータのまとめ方等に問題があったことが判明したので、今後、改善することとしており、順位の改善につながると思う。
- ◆ 資料3の26ページ、グローバル人材育成特別コースの所属部局別人数に関し、学部によって、差がある印象を受ける。全学としての取り組みが必要なのではないか。
- ◇ グローバル人材育成特別コースは副専攻として位置づけられており、その修了には、コース科目の単位を取得する必要があるため、学部によっては参画しにくい学部がある。なお、来年度から、あらたに学部学科型のコースを導入する予定にしており、差が少なくなることが予想される。

(2) 次回開催日について

次回経営協議会は、9月19日（水）13時30分から津島地区本部棟において開催予定となった。

以 上